

歴史から見た現代共通語 の疑問標識分布

国立国語研究所共同研究プロジェクト
「日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究」研究発表会
2015年3月15日 於 国立国語研究所 2F 多目的室
金水 敏
(大阪大学大学院文学研究科/国立国語研究所)

要旨

- 日本語の疑問標識「か」(および「や」)は、疑問詞疑問文および肯否疑問文との間でさまざまな分布パターンを示してきたが、現代共通語では、間接疑問文(間接疑問節)と直接疑問文の区別を第一に示す方向に変化しつつある。直接疑問文においては、「か」に変わって疑問のイントネーションが発達しつつある。

疑問標識の機能

1. 平叙文から疑問文を区別する。
2. 付加される位置が一定の統語的機能を持つ。
 - ・焦点位置を示す(文中または文頭・文末)
 - ・節境界を示す(文頭または文末)

肯否疑問文・疑問詞疑問文と 疑問標識のパターン

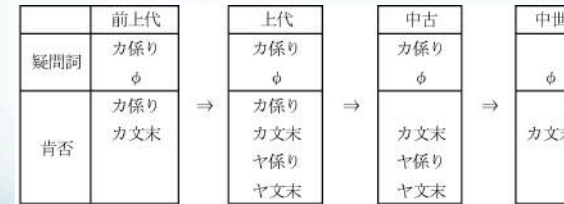
1. 肯否疑問文のみに付加される(疑問詞疑問文は、疑問詞があるので疑問文と分かる)
2. 肯否疑問文・疑問詞疑問文にかかわらず、一律に付加される。
3. 肯否疑問文と疑問詞疑問文で別の標識が付加される。

疑問詞疑問文と肯否疑問文

表1 『竹取物語』と『天草版伊曾保物語』の疑問表現形式(柳田(1985:128-129)[表11] ()は竹村による補注)

	〔言語行為〕	〔中古〕 竹取物語	〔中世〕 天草版伊曾保物語
疑問詞の疑問表現	問い	疑問詞……か…… 疑問詞……ゾ	疑問詞……ゾ
	疑い	疑問詞か…… 疑問詞……ゾ	疑問詞……か
	反語	疑問詞……か…… 疑問詞……	疑問詞……か……ゾ 疑問詞……ゾ
要判定の疑問表現	問い	……か…… ……か	……か
	疑い	……か…… ……か	……か
	反語	……か(ハ)…… ……か(ハ)	……か

図1 上代以前からの疑問形式の変化(衣畑(2014b: 73) [図2])



係り結びと焦点について

- (1) 穿沓を 脱き棄のごとく 踏み脱きて 行くちふ人は 石木よりなり出し人か (万葉集・巻五・800番)
- (2) いづくにか舟乗りしけむ高島の香取の浦ゆ漕ぎ出来る舟(万葉集・巻七・1172番)
- (3) この照らす 日月の下は 天雲の 向伏す極み たにぐの さ渡る極み 聞こし食す 国のまほらぞ(万葉集・巻五・800番)
- (4) み吉野の山のあらしの寒けくにはたや今夜も我が独り寝む(万葉集・巻一・74番)
- (5) 我がここだ思はく知らに霍公鳥いづへの山を鳴きか越ゆらむ(万葉集・巻十九・4195番)

万葉集肯否係り結びの「か」と「や」

	「か」肯否係り結び	「かも」肯否係り結び	「や」肯否係り結び	「やも」肯否係り結び
名詞	29	254	29	231
代名詞	2	18	1	0
動詞	3	28	3	28
形容詞	8	7	2	19
助詞	4	35	0	0
助動詞	2	18	1	0
接尾語	1	0	1	0
助動詞(用言)	0	0	0	4
助詞(用言)	0	0	13	12
助動詞	0	0	0	4
助詞	0	0	1	1
助動詞	0	0	0	2
助動詞(用言)	14	123	10	93
助動詞	2	18	18	176
助動詞	5	44	3	28
助動詞	0	0	0	3
助動詞	2	18	1	0
助動詞	4	35	3	28
助動詞	3	26	1	0
助動詞	5	44	0	0
助動詞	6	53	10	93
助動詞	0	0	0	1
助動詞	0	0	0	3
助動詞	8	7	5	74
助動詞	1	0	0	7
助動詞	0	0	3	28
助動詞	5	44	2	19
助動詞	1	0	0	0
助動詞	0	0	0	1
助動詞	0	0	0	1
助動詞	0	0	1	0
助動詞	0	0	1	0
助動詞	0	0	0	0
助動詞	114	100	100	100
助動詞	112	100	8	100

表2 「疑問詞一文未現詞」の全体数 (竹村・金水 2014:6 [表2])

形式	キリシタン資料		抄物	
	資料 天草平家 (口語)	サントス (文語)	玉腰抄 (巻4まで)	毛詩抄 (巻4まで)
疑問詞一ゾ	145	95	27	118
疑問詞一カ	34	1	2	0
疑問詞一ヤ	0	31	0	0
疑問詞一他	2*	4**	22***	3****
計	181	131	51	121

※注1: * 「疑一ヤラ」「疑一ゾヤ」各1例。 ** 「疑一ゾヤ」4例
 *** 「疑一ヤラ」21例、「疑一ヤン」1例。 **** 「疑一ヤラ」3例

表3 『天草版平家物語』疑問詞疑問文「ぞ」文末と「か」文末の違い (竹村・金水 2014:16 [表9])

	疑問詞一ゾ	疑問詞一カ
疑問詞	「なぜこ」が多い。	「なぜこ」との強い結びつきなし。
言語行為	「問い」が多い。	「問い」が多い。 (「問い」では詰問)
使用場面	会話文	地の文・心中思惟
構文的特徴	主節が多い	注釈的・二文連置になりやすい。

中世・近世の間接疑問文

- (19) 道ノニアアル岐ト云ソ カヨウカハヨハヌカ知レヌソ 字書ヲ引テミヌソ(蒙求抄・一・40ウ13)
- (20) 上に産んだか下に産んだか存ぜぬ。(『エソポのハプラス』, 原著413頁)
- (21) 悪党が多う籠ってみれば、何たるもののしわざか存ぜぬなどと種々様々のことを語られた。(『天草版平家物語』巻四, 原著294頁)
- (22) 久しいのだから利かどふかしれねへす。(深川新話(1779))

「～か」による二文連置構文

- (10) 忠度はどこから引き返されたか、侍を五人連れて、俊成卿の宿所にうち寄せて見らるれば、(『天草版平家物語』巻三, 原著181頁)
- (11) 光能卿「当時はわが身も官をもやめられて心苦しい折節ぢや: また法皇も押し寵められさせられてござれば、何とあらうか、知らねども、うかがうて見う」と言うて、(『天草版平家物語』巻二, 146頁)

係り結びの衰退と 間接疑問文の発生

- 衣畑(2014) より
文中にあって文末に勢力をおよぼす係り結びが室町時代に衰退し、あい前後して不定表現や間接疑問文が発生した。
- 係り結びが不定表現や間接疑問文をブロックする(仮説)

近世における 間接疑問文の発達

表4 間接疑問のバリエーション

	覺平家	史窓抄	毛壽抄	虎明	近松	上方
単独 & 疑問詞なし	1	11	1	31	16	6
並列 & 疑問詞なし		1	6	11	22	7
単独 & 疑問詞あり				1	7	3
並列 & 疑問詞あり						1

衣畑・岩田(2010)10頁

現代共通語の「か」の分布

- (6) a. 誰が来ましたか。【疑問詞疑問文】
b. 田中さんは来ましたか。【肯否疑問文】
- (7) a. ??誰が来たか。【疑問詞疑問文】
b. 田中さんは来たか。【肯否疑問文】
- (8) a. 誰が来ました?【疑問詞疑問文】
b. 田中さんは来ました?【肯否疑問文】
c. 誰が来た?【疑問詞疑問文】
d. 田中さんは来た?【肯否疑問文】
- (9) a. 誰が来たか分からない。【疑問詞疑問文】
b. 田中さんが来たか(どうか)分からない。【肯否疑問文】

現代共通語「か」の分布

		疑問詞疑問文	肯否疑問文
直接疑問文	丁寧(～ます)	△ 誰が来ます(か)?	△ 山田は来ます(か)?
	丁寧(～です)	△ 誰の本です[?Φ/か]?	○ あなたの本です[*?Φ/か]?
	非丁寧(動詞・形容詞)	× 誰が来る[Φ/*か]?	△ 山田は来る[Φ/か]?
	非丁寧(名詞述語等)	× 誰の本[だ/Φ/*か]?	△ おまえの本[*だ/Φ/か]?
間接疑問文	(動詞・形容詞)	○ 誰が来る[*Φ/か]	○ 山田が来る[*Φ/か(どうか)]
	(名詞述語等)	○ 誰の本[*だ/か]	○ 山田の本[*だ/か(どうか)]

- 直接疑問文では疑問詞疑問文と肯否疑問文でゆるやかな対立がある。
- むしろ、直接疑問文と間接疑問文の対立が鮮明である。

現代共通語の 間接疑問節の特徴

- 節末に「か(どうか)」が必須
- 普通体のみ。丁寧体は不可。
- 「だろう(でしょう)」は不可。
- 終助詞は不可。
- 「の」(～のだ)は可。

現代共通語の 直接疑問文の特徴

- 「か」の分布は、疑問詞疑問文では、普通体で不可、丁寧体で随意(丁寧体の後の「か」はイントネーションで代用可)。
- 肯否疑問文では、動詞・形容詞では「か」が省略可能(文体によっては不可)だが、「だ/です」そのまま疑問文を作ることにはできない(「だ」を「か」に換えるか、「です」のあとに「か」を付加する。話者によっては「です」で疑問文を作れる人もいる)。
- 「誰が来るかなあ」「誰が来るかよ」など終助詞を伴った確認文、反語文などでは、上記要件にかかわらず「か」が必須。

cf. 『基礎日本語文法』

- 益岡・田窪(1992)

疑問語疑問文は、疑問語[...]を文中に含む。質問型の疑問語疑問文は、普通体では、原則として「か」が使えない。丁寧体では、「か」を使ってもよい。

例(12)*次は何を見るか(↗)

(13)次は何を見ますか(↗)

自問型の疑問語疑問文は、普通体でも「か」を使うことができる(例(6)参照)。選択疑問文も、質問型の疑問語疑問文と同様の制限を持つ。

例(14)*文法は、好きか、嫌いか(↗)

田中章夫(1956)

- 近代東京語的終止形式(37頁)

江戸語的形式の形成時代 京阪語的形式が中心

表現性陳述のある終助詞ヤが残存

↓

(第一変動期-化政期)

↓

江戸語形式の成熟時代

江戸語的形式が発達

表現性陳述のある力を中心とした終止形式が多様性を増す

↓

(第二変動期-明治前半)

↓

現代東京語的形式の時代

現代東京語的形式が発達

終止部の上昇調イントネーションに表現性陳述をゆだねる終止形式が著しく発達する

歴史資料から

- 書生言葉の疑問文の例

(小)倉瀬は如何(どう)したか

(須)麓(した)の茶屋に俟(ま)ちよるじやらう。

(『一読三歎 当世書生気質』当世書生気質)

方言の例

- 国研(2008)より鹿児島県揖保郡穎娃町牧之内飯山、1977年収録

アイカ^レチャ ウチャ ゲナフージャッタガ
あの人の 家は どんなふうだったか (28頁)

- 同、沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊

なんマン ソーガちとウ デイン マシディ ナーとウガ?
[昔の正月と]今の 正月と どれが よいと 思うか? (128頁)

- DVD『龍神マブヤー3』

ハブクラーゲン「誰がボスカあ〜?」(0:08:19)

鳥取方言

- 国研(2007)鳥取県米子市 1984 談話

アエ ドコカラ、クラーカ コトーヤガ。
あれ どこから 来るんだらうか 骨董屋が。

ヨナゴカラ クラーカ
米子から 来るのか。

アー オキ オキモンカ
ああ ×× 置物か。

アラ マタ オイデタカー コトーヤサン
あら また いらっしゃったか 骨董屋さん

タオサエテモ マタ クタラカナ
踏み倒されても また いらっしゃったか

ソガ [...] イッチョッテダツカ
そう [...] 言っけらっしゃったか。

アエー ソゲカ。
あれ そうか。

- この方言では、直接疑問文で、疑問詞疑問文でも肯否疑問文でも「か」で終わることを標準とする。

まとめと課題

- 中世後期に、文末「か」は一旦肯否疑問文に大きく偏るが、室町末期には疑問詞疑問文にも文末「か」が一定割合で分布していた。
- 文末「か」の疑問詞疑問文は、中世末期において「ぞ」との対比のなかで自問的なニュアンスに偏っていた。間接疑問節の発達との関連が問題となる(衣畑・岩田2010参照)。
- 近世後期に、丁寧体やモダリティ形式の発達とともに、直接疑問文の文末「か」が改めて発達した(詳細な調査は今後の課題)
- 現代共通語では、間接疑問節で節末の標識として「か」が必須化する一方で、直接疑問文では疑問のイントネーションの発達とともに、文末「か」が落ちていく傾向が見られる。特に普通体の疑問詞疑問文では「か」は起きにくい。
- 方言の調査は今後の課題であるが、普通体の疑問詞疑問文は多くの方言で「か」類の疑問標識を付加しない。しかし薩摩方言、琉球方言(伝統方言、ウチナーヤマトウグチを含む)ではこの制約がないかもしれない。
- 明治時代の書生語でも普通体疑問詞疑問文+「か」の形式が見られるが、これは薩摩方言の影響が疑われる。

参考文献

- 金水 敏 (2012a)「理由の疑問詞疑問文とスコープ表示について」近代語学会(編)『近代語研究』第16集、349-367、東京:武蔵野書院。
- 金水 敏 (2012b)「疑問文のスコープと助詞「か」の」『国語と国文学』89(11): 76-89、東京大学国語国文学会。
- 金水 敏 (2012c)「日本語の疑問詞疑問文と「の」の有無」『語文』99: 45-57、大阪大学国語国文学会。
- 衣畑智秀 (2014a)「係り結びがもたらす疑問助詞の分布制約—日本語史と琉球語から—」『日本語学会第148回大会予稿集』212-217、日本語学会。
- 衣畑智秀 (2014b)「日本語疑問文の歴史変化—上代から中世—」青木博史・小柳智一・高山善行(編)『日本語文法史研究 2』61-80、東京:ひつじ書房。
- 衣畑智秀・岩田美穂 (2010)「名詞位置の力の歴史—選言・不定用法を中心に—」『日本語の研究』6(4): 1-15、日本語学会。
- 国立国語研究所(編) (2008)『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第20巻 鹿児島・沖縄』国書刊行会。
- 田中章夫 (1956)「近代東京語質問表現における終止形式の考察—文章論的考察の試み—」『国語学』25輯、国語学会。
- 長崎 郁 (2014)「コリマ・ユカギール語における疑問文—疑問詞疑問文を中心に—」『日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究』第3回研究発表会資料(2014年3月20日、国立国語研究所)。

参考文献

- 野村剛史(2001)「ヤによる係り結びの展開」『国語国文』70(1): 1-34, 京都大学国語国文学会.
- 野村剛史(2005)「中古係り結びの変容」『国語と国文学』82(11): 36-46, 東京大学国語国文学会.
- 大野 晋(1993)『係り結びの研究』東京:岩波書店.
- 阪倉篤義(1993)『日本語表現の流れ』東京:岩波書店.
- 高宮幸乃(2003)「現代日本語の間接疑問文とその周辺」『三重大学日本語学』14: 116-104 [1-13].
- 高宮雪乃(2005)「格助詞を伴わないカの間接疑問文について」『三重大学日本語学』16: 104-92 [15-27].
- 竹村明日香・金水 敏(2014)「中世日本語資料の疑問文—疑問詞疑問文と文末助詞との相関—」『日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究 研究報告書(1)』3-20, 国立国語研究所.
- 山口堯二(1990)『日本語疑問表現通史』東京:明治書院.
- 柳田征司(1985)『室町時代の国語』東京:東京堂出版.